

# ■広島派遣報告



▲平和の集いに出演した令和7年度派遣中学生ほか

令和7年12月14日(日)、けやきプラザふれあいホールにて「平和の集い～我孫子から平和を願う～」を開催しました。派遣中学生たちは、広島で学んだことや感じたことを、スライドを交えながら報告しました。

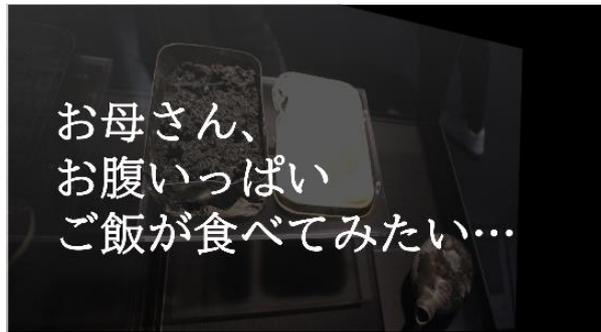
本書では派遣中学生による報告を一部抜粋してご紹介します。



毎日、誰かが死んでいく

毎日、誰かが死んでいく

お母さん、お腹いっぱい  
ご飯が食べてみたい・・・



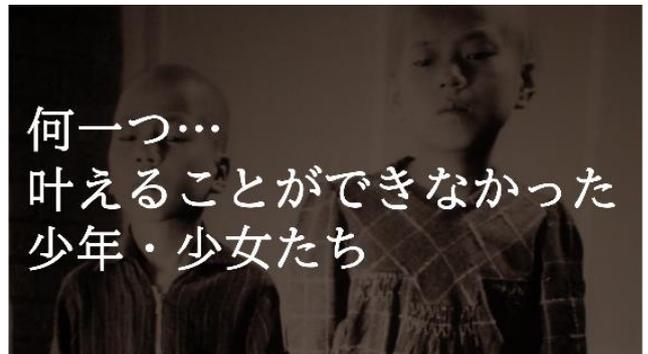
お母さん、  
お腹いっぱい  
ご飯が食べてみたい・・・



友達と思いっきり遊びたい

友達と思いっきり遊びたい

何一つ・・・  
叶えることができなかった  
少年・少女たち



何一つ・・・  
叶えることができなかった  
少年・少女たち



すべての日常・・・  
夢や願いを  
奪い取ったのは・・・

すべての日常・・・  
夢や願いを奪い取ったのは・・・

# 原爆



戦争・・・そして原爆。

この原子爆弾の投下こそが、戦争の被害をさらに深刻化させ、わずか一瞬で数十万の命を奪う原因となるのです。

昭和20年8月6日 月曜日、午前8時15分。  
あの日から80年の年月が過ぎました。



私たちは、このような悲劇が二度と繰り返されないよう、戦争や核兵器の恐ろしさを知り、平和の尊さを学ぶために被爆地となった広島へ向かいました。

## 我孫子市平和事業

広島 17回  
長崎 4回

派遣中学生  
220名



これまでに我孫子市では、広島に17回、長崎に4回、中学生を派遣してきました。戦後60年の2005年、平成17年から始まった事業です。

のべ220名の中学生が我孫子市平和事業の一環として、派遣されてきました。

## 事前説明会 事前勉強会等

7月22日、私たちは我孫子市内6つの中学校から最大3人ずつ、代表として広島への派遣説明会に参加しました。

### 令和7年度 中学生派遣事業 事前説明会・事前学習会等

日時 : 令和7年7月22日(火) 午後1時30分から4時30分

場所 : 我孫子市役所 分館大公会議室

- 午後1時30分から2時30分【事前説明会】  
派遣者及び引率者顔合わせ、行程の説明、注意事項など
  
- 午後2時30分から3時00分【その他】  
団長・副団長の決定、活動グループ分け、部屋割り
  
- 午後3時10分から4時00分【事前学習会】  
我孫子市平和事業推進市民会議委員の方からのお話・質疑  
・我孫子市平和事業推進市民会議委員 山田 典子 さん  
先輩派遣中学生からのお話・質疑  
・令和5年度広島派遣中学生 百海 恭吾 さん  
・令和5年度広島派遣中学生 石川 心愛 さん  
・令和4年度広島派遣中学生 菅 光祐 さん
  
- 午後4時00分から4時30分【市長・教育長との懇談】  
市長・教育長との懇談、写真撮影

説明会では、平和事業推進市民会議の桑原俊晴会長や、被爆2世である山田典子さんからお話を伺いました。



被爆直後の街の様子や山田さんのお母様が受けた被害などを聞き、感情を言葉で表せない想いでした。



また、自分たちがこれから派遣される目的や行動、平和事業について考えた時間でもありました。

過去に派遣事業に参加された先輩方から、派遣で体験したことなどをたくさん教えてもらい、派遣中学生の自覚が芽生えました。

星野順一郎市長、丸智彦教育長からも、お話を伺いました。

星野市長からは、「知識は後からでいい。現地で感じる事が大切だ。」という言葉いただきました。知識ばかりを詰め込んだ、頭でっかちな学びではなく、広島でしか見れないもの、広島でしか聞けないこと、広島でしか感じられない思いを大切に、学ぼうと思いました。



私たち派遣団は、説明会を経て多くのことを知り、派遣までの間、広島に投下された原子爆弾や当時の状況について調べ、出発の日を待ち望んで過ごしました。

最初は、この仲間と仲良くなれるのかと不安もありましたが、派遣の日が近づくにつれ、早くその日が来ないかと待ち遠しくなりました。

## 1日目（8月5日）



いよいよ広島へ向かう派遣団としての第一歩を踏み出す瞬間。  
胸の高鳴りと、少しの不安が入り混じる、忘れられない時間となりました。



広島に着くとすぐに原爆ドームへ向かいました。

移動の中心は我孫子市にはない路面電車で、現地の天候はこれからの行動が不安になるほどの暑さでした。

ですが、路面電車を降りると数えきれないほどの人・・・

日本人ばかりでなく、外国の方も多く訪れ、現地スタッフ、警察・警備の方、街頭活動を行う人、平和について訴える人達・・・物々しい雰囲気でした。

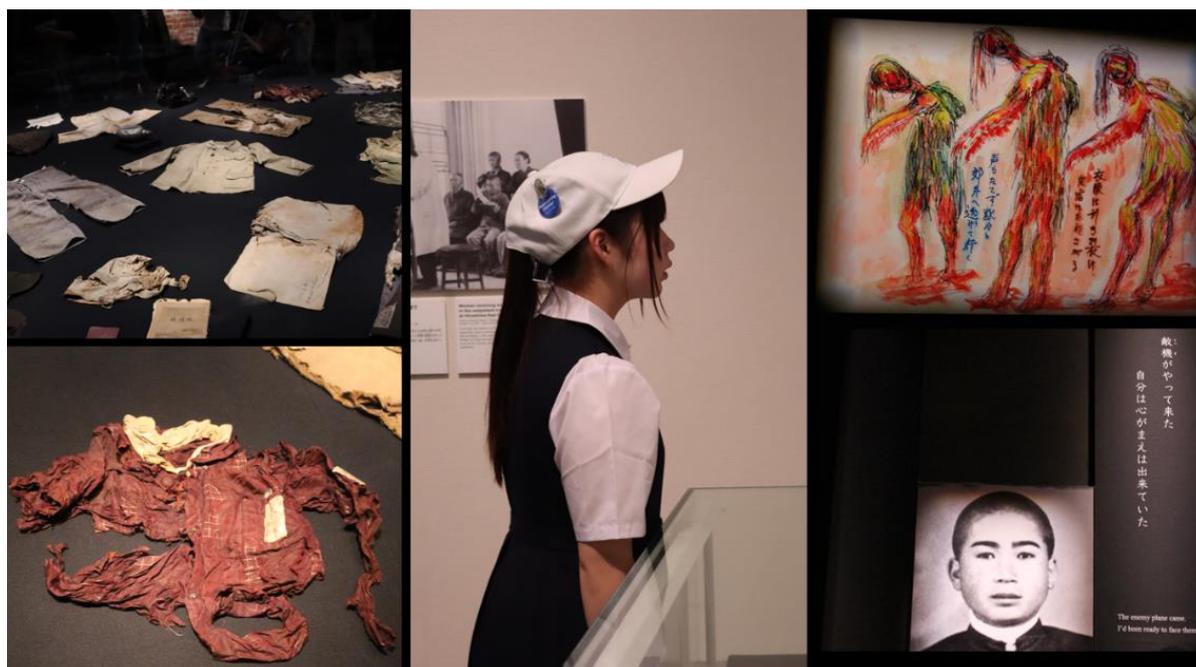
世界の人々がこの日に広島を訪れている姿を見て、「この広島の家や、広島に投下された原子爆弾が世界から注目されている」と最初に実感した瞬間でした。

平和記念公園の見学を終え、私達はいよいよ広島平和記念資料館へたどり着きました。

星野市長から、「資料館には当時の被害にあわれた方々が見たもの、感じたものが展示してある。それがどんなものだったのか、まずはそれに触れてみてください。」

との話があり、その市長の言葉に、「いよいよだ・・・」と心の中で思いました。

この中に、私達には予想もできない80年前のあの日の記憶が残っており、目の当たりにするのだと・・・。



資料館に入った瞬間、覚悟していたはずなのに言葉を失いました。

そこには、被爆直後の町の惨状や、人々の苦しみが写真や絵、血の付いた衣服、焼け焦げた衣服、そして生々しい証言によって伝えられていました。

特に、幼い子どもたちが犠牲になった写真や証言を目にしたとき、涙をこらえることができませんでした。



これが戦争・・・これが原爆・・・ 私たちが考えていた以上の光景でした。  
一つひとつの展示物に、その人の生活や家族の想いが詰まっていると考えると胸が  
苦しくなりました。どれ一つとっても、その人の人生の一部だと気づいたとき、原爆  
の被害は数字や記録以上に深い悲しみを伴うものだと感じました。



「二度と戦争を繰り返してはいけない」「戦争の事実を忘れてはいけない」  
そんなメッセージを、無言で伝えているように感じました。

資料館を見学した後、私たちは広島原爆死没者追悼平和祈念館を見学しました。

祈念館内の平和祈念・死没者追悼空間では、壁一面に、原爆で亡くなった方の数と同じ約14万のタイルを使って、被爆後の街並みを表現しています。

たった一発の爆弾がこんなにも多くの人々の人生を、未来を奪ったのかと思うと、悲しみを乗り越し怒りがこみ上げてきました。



80年前のこの日の記録や記憶を目の当たりにして思った事・・・

それは心の奥底からの追悼の気持ち。

私たちは慰霊碑に心からの祈りを捧げました。「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返させぬから・・・」

戦後80年となる今年、慰霊碑には新たに4,940人の名前が追加され、合計34万9246人となった原爆死没者名簿が納められています。

## 慰霊碑



## 2日目（8月6日）

平和記念式典には、戦後80年という節目の年ということもあって、世界各国の人が来場しており、過去最多の約120もの国と地域の関係者が参列していました。

この8月6日がどれほど大切な日なのかを感じる事ができました。



2025.08.06 | 平和記念式典参列

また、それぞれの代表の言葉に、恒久平和や核兵器のない世界という言葉が多く用いられており、「平和」とは何かを深く考えることができました。

式典が始まると、広島市長の平和宣言、内閣総理大臣からのあいさつ、平和への誓いなどを聞きくことができました。

一つ一つの言葉から「平和」ということについて思いを馳せました。



写真提供：広島市広報課

記念式典の様々な話の中で、私達が特に印象に残っているのは、子ども代表からの平和への誓いです。

「同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要がある。」  
「周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながる。」  
「One voice たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはず。」

この言葉に、広島で学んだことを伝える役割・・・たとえ一人になろうとも諦めず、伝えていかなければならない。それが自分たちの使命だと話す堂々とした姿に、同じ学生として身が引き締まるような思いになりました。

平和記念式典を通して、より一層、自分達が伝え繋ぐことの意義を感じる事ができました。

式典の参列後、我孫子市からの千羽鶴を平和記念公園内の折り鶴ブースに奉納させて頂きました。

広島では、原爆により、約2万2千人もの子供が亡くなっています。平和記念公園内にある「原爆の子の像」は、子どもたちの尊い命を無駄にしないという願いが込められています。

石碑の上には女の子が両手を広げ、平和の象徴である折り鶴を掲げています。モデルとなったのは、原爆により白血病をわずらい、12歳の若さで亡くなった佐々木禎子さんです。核兵器廃絶、そして平和な世界を祈る上で、この千羽鶴が持つ意味。私たちも、我孫子のみなさんのたくさんの願いが込められた千羽鶴を奉納させていただきました。





千羽鶴奉納後、私たちは平和記念公園内にて、インタビューを行いました。

「原子爆弾について、どんなことを知っているか？」と伺うと、若い方ほど「教科書や社会の授業でのみ」という声が多く、実際の体験を聞く機会が少なくなっていることを実感しました。



式典を通しての心境の変化について質問をすると、「一瞬でたくさんの人の命を奪ってしまうことに驚いた」という方や、「平和の大切さを学んだ」、「家族で仲良くしようと思った」という声がありました。

一方で、毎年参列しているという広島県民の方は、「ここに来ると、核や原爆について思いを持った人の多さを感じて安心する」と答えてくれ、平和記念式典や平和記念公園は、平和を祈る人々の象徴のような意味があるのだと思いました。



午後には、今年、広島市役所にて初めて行われた「全国平和学習の集い」に参加しました。

参加した団体は私達を含めて72の自治体、800名を超える子ども達、そしてボランティアとしてユース・ピース・ボランティアの方々が参加されていました。

そこでまず私達は、原爆被害の概要について、改めて説明を受けました。

## 被爆体験講話の聴講

### 河野 キヨ美さん

被爆時：14歳

爆心地から35km離れた郊外の自宅で広島市への原爆投下を知る。翌日、2人の姉を探しに市内に入った。

次に、被爆体験証言者である河野キヨ美さんの講話をお聞きしました。

河野さんのお話では、戦時中は「戦いに勝った」という情報しか与えられず、「日本は勝つ！」という先生の話信じるよう教育されており、「広島に爆弾が落とされた」という情報も、6日の夕方、大勢の怪我人を乗せた自動車を見たときに初めて知ったということです。



河野さんは当時十四歳で、広島に住んでいた姉の安否を確認するため、8月7日の朝、車で広島を訪れた時のことを

「驚愕した。広島街が残らず消え、ただ黒く続く焼け野原だった。」と話されていました。強い放射線を浴びた人間の体は何倍にも膨らみ、性別もわからない……。屍の数は、足の踏み場も無いほど。水を飲もうと川に飛び込んだ人々の死体が引き上げられ、菰（こも）がかけられましたが、菰の下から「水を飲ませてくれ」と懇願する声が聞こえていました。まだ中に生きていた人がいたのだと、当時の状況を語ってくれました。



一番衝撃的だったのは、病院の外に、中学生の死体が丸太のように積み重なっていたというお話です。

原爆投下当日、建物疎開の取り壊し作業のために、8,200人の動員学徒が集められていたそうです。

動員されたのは13歳以上の学生。

河野さんの講話を聴いて、たった一発の原子爆弾が起こした被害の痛ましさを痛感しました。

河野さんは、あの日の惨状を絵や言葉でしか表すことができないとした上で、「今の平和な暮らしが多く犠牲の上にあることを考えてほしいと訴え、伝えることが生き残った者の責務」だと語りました。

調べる、知る、それだけではわからない、リアルで生々しい当時の様子や感情、残酷さを学ぶことができました。

講話後には、グループディスカッションを行いました。

ディスカッションは、2つのテーマで行われ、1つ目は、「自分の地元が第二次世界大戦中にどのような被害を受けたか」を伝え合いました。原爆の被害を受けた広島、長崎では、目に見える被害以外にも、精神的な被害を受けた人もおり、原爆孤児という言葉もありました。



2つ目のテーマは、「今平和でない状態とはどのようなことか。また、どうしたら解決できるか」について話し合いました。平和でない状態としては、差別やいじめ、すべての国が協力していない現状があげられました。全員で助け合おうとする気持ちを持つこと、自分達から正しい事実を知り発信することなどの、具体的で身近な意見を交換することができました。



平和学習の集いを通して、全国の同じ思いを持つ学生達と意見や言葉を交わし、思いを伝い合えたのは、私達にとってとても有益なことでした。

一人一人環境には違いがあり、自分とまったく同じ考えの人はどこにもいません。だからこそ「身近なところから思いを伝え、共に考え、平和な世界に向かって歩いていきたい。」そんな思いを持つことができた集いとなりました。

### 3日目（8月7日）

#### 多聞院



多聞院は爆心地に最も近い木造の被爆建築物として、今も静かに佇んでいます。

爆心地から1,750mという近さから、本堂や山門は倒壊しましたが、鐘楼は屋根や天井こそ破壊されたものの、倒壊を免れることが出来ました。今でも破壊された天井は保存されており、原爆の悲惨さを物語っています。



そして、鐘には「NO MORE HIROSHIMA」の文字が刻まれており、「もう二度とこのような過ちを繰り返さない、世界が平和になることを願う」という強い意志を感じました。この鐘は平和の鐘とも呼ばれ、戦争の残酷さと平和の尊さを今でも訴えかけています。この平和の鐘は毎朝原爆が投下された8時15分に鳴らされ、原爆によって亡くなった方の鎮魂と世界平和の願いが込められています。



広島では最後に、本川小学校の平和資料館を見学しました。

## 本川小学校（平和資料館）



本川小学校は爆心地からわずか410mの場所にあり、そのとき屋外にいた10人の教師と約400人の児童は全員犠牲となり、鉄筋コンクリート造りの屋内にいた教師と児童のわずか2人だけが、助かったそうです。校舎は被害を受け、窓ガラスが割れて壁は崩れ落ちました。



残酷で、希望の見えにくい毎日でしたが、広島に住む人々は、力を合わせ、子どもたちへ教育をできる環境を作り上げていきました。

授業が再開したのは、約半年後の2月23日でした。勉強したり、外で遊んだりと子供らしく過ごせることも多くなりましたが、窓も、黒板もない校舎で素足のまま空腹を抱えながら学習していたそうです。



私たちが当たり前だと思っていた学校生活も、当たり前でないことに改めて気づかされました。



帰り道、新幹線のトラブルに巻き込まれて、我孫子への到着が大幅に遅れてしまいましたが、全員が無事に我孫子へ戻ってきました。3日間とは思えない、内容が充実した広島派遣でした。

この3日間で原爆についての知識だけでなく、戦争の恐ろしさや残酷さ、また被爆者の生きる強さ、後世に伝えようとする意志など、現地でしかわからないことをたくさん得ることができました。これらの派遣を通して、行く前よりも一回り成長した気がしました。

## 我孫子市平和祈念式典

私達は広島派遣の翌週、8月16日にアビスタで行われた我孫子市平和祈念式典に参加しました。

我孫子市平和祈念式典は、戦没者及び原爆犠牲者に哀悼の意をささげるとともに、核兵器の廃絶と平和を祈念し、毎年実施しています。



我孫子市の平和都市宣言を読み上げ、今一度平和の実現に向けた気持ちを参列者で一つにしました。

平和都市宣言には、世界の恒久平和についての願いや、我孫子市の核兵器廃絶に対する思いがつつられています。

式典終了後、手賀沼公園の「平和の記念碑」に献花をしました。



記念碑の側にある「平和の灯」を見て、広島と我孫子市、場所は離れていても平和への思いは一つだということを実感しました。

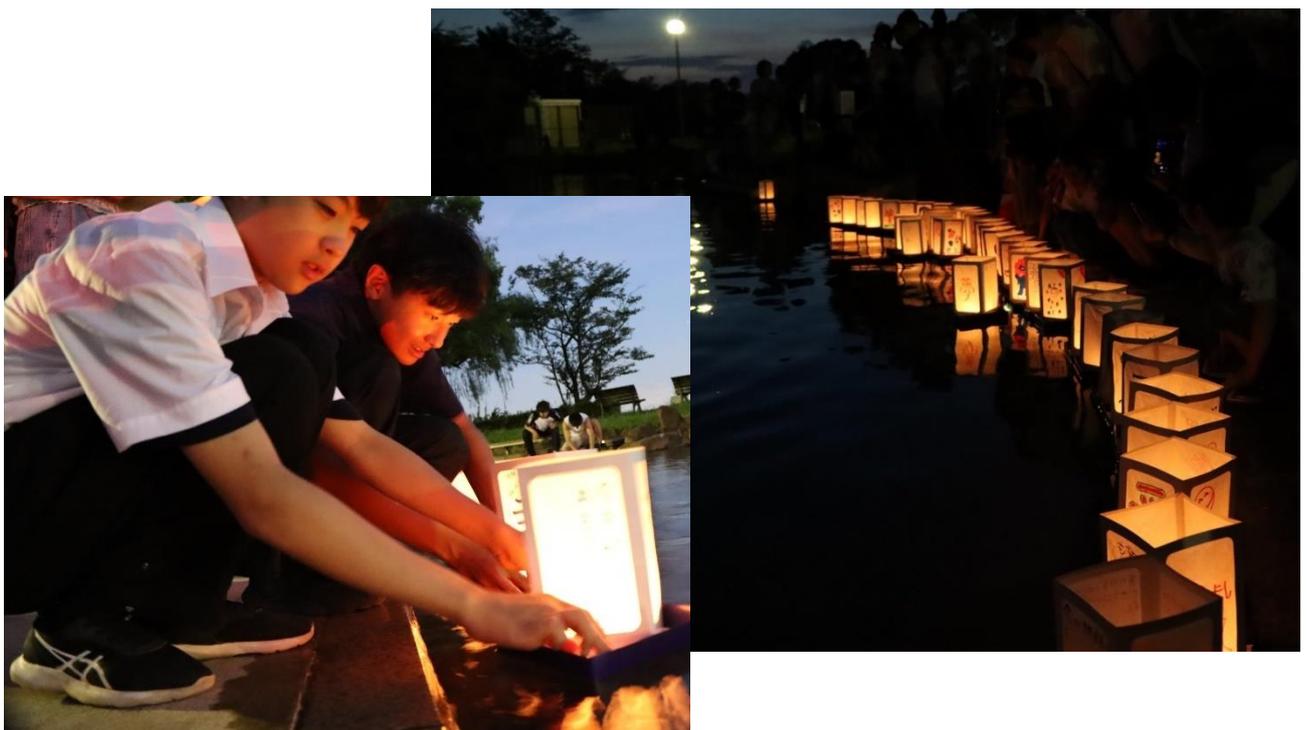
「平和の灯」は、世界から核兵器が無くなることで灯が消えます。一刻も早く「平和の灯」が消えるよう、核兵器の恐ろしさや平和の尊さを多くの人に伝えていこう、と決意を新たにしました。



午後からは、戦後80年・我孫子市平和都市宣言40年記念事業として実施された「あびこ平和の日」に参加し、平和への思いを込め、とうろうを作成しました。



夕方、作成した灯籠を流すために、じゃぶじゃぶ池に移動しました。灯籠には、私たちのそれぞれの平和への願いや思いをしるし、完成した灯籠に灯りをともし、流しました。みんなが笑顔で灯籠を流す姿を見て、私たちが当たり前のように過ごしているこの日常が平和なのだと改めて強く感じました。





とうろうに平和の願いを込めて・・・



## 広島・長崎派遣中学生リレー講座「未来を生きる子どもたちへ」



我孫子市では、派遣中学生のOB・OGたちが市内の小学校6年生に向けて、平和について考え、伝える「広島・長崎派遣中学生リレー講座」を行っています。戦争や原子爆弾の悲惨さ、平和の尊さを次の世代へ語り継いでいくことを目的として、たくさんの講師の人や、アシスタントが、新しい時代を作っていく子どもたちに伝えています。



私たちは、この取り組みに参加できることをとても誇りに思っています。過去の過ちを繰り返さないために、市内の小学校に赴き若い世代に伝えていく、我孫子市の取り組みにとっても感謝しています。

そして、このリレー講座は私たちにとっても、良い経験になっています。活動を重ねていくことで、自分の思いや学んだことを伝えることができるようにもなりました。

これからも責任をもって、誠心誠意この取り組みに参加していきたいです。